

くらぶち  
●倉渕ダム建設事業の概要

【目的】

- ① 洪水調節（利根川水系烏川の洪水防御  
治水安全度 1/100）
- ② 流水の正常な機能の維持
- ③ 水道用水の供給（高崎市：63,330m<sup>3</sup>/日）

【事業費・進捗状況】

- ・ 事業費：400億円  
（残事業費：約238億円）
- ・ 執行済額：161.9億円  
（進捗率：40.5%）  
（昭和59年から平成25年度）

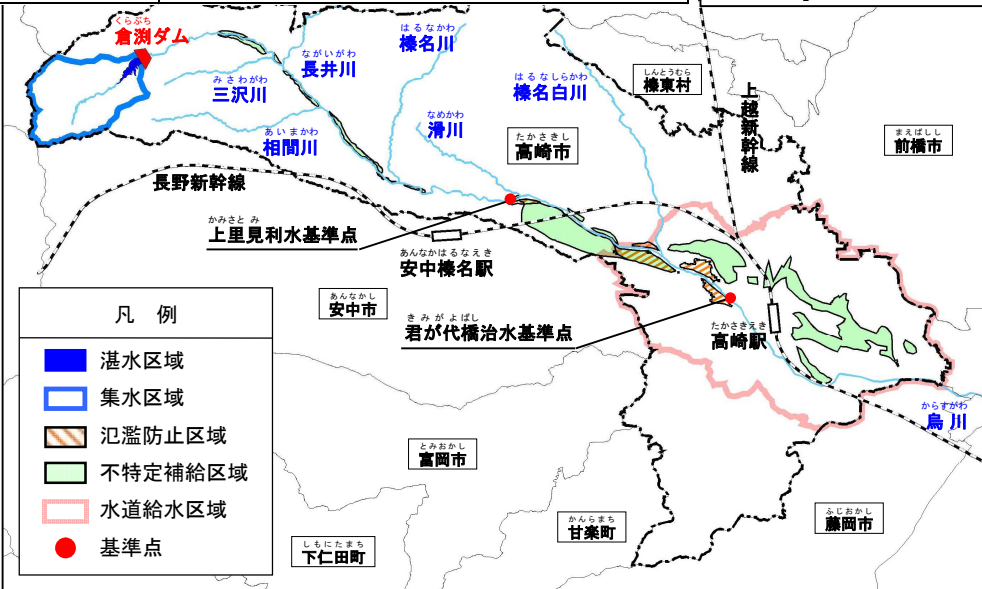
【施設諸元】

- ・ 位置：群馬県高崎市
- ・ 形式：重力式コンクリートダム
- ・ 総貯水容量：11,600,000m<sup>3</sup>  
治水容量：5,500,000m<sup>3</sup>  
利水容量：5,300,000m<sup>3</sup>  
（水道）：4,500,000m<sup>3</sup>  
（不特定）：800,000m<sup>3</sup>  
堆砂容量：800,000m<sup>3</sup>
- ・ 堤高：85.6m
- ・ 堤頂長：386.4m
- ・ 堤体積：564,000m<sup>3</sup>

【事業経緯】

年度	経緯
昭和59年度	実施計画調査に着手
平成2年度	建設事業に着手
平成14年度	烏川圏域河川整備計画策定
平成15年12月	県議会において知事が「当面の間、本体工事等残工事への着手を見合わせる」とし、工事休止
平成21年度	群馬県公共事業再評価委員会「事業中止」（中止する方向で法定手続を進める。）
平成22年度	ダム事業の検証に係る検討の要請

【群馬県】



●代替案立案等の可能性

①洪水調節

〔現行計画〕

君が代橋基準点において、倉渕ダムにより200m<sup>3</sup>/sを調節し、河道への配分流量を2,000m<sup>3</sup>/sとする計画（治水安全度1/50）

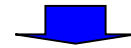


○新規利水の撤退により、ダムの治水負担額が増となることが確認され、当面の目標における治水対策案では、河川改修による対策が優位となる。

②流水の正常な機能の維持

〔現行計画〕

既得用水の補給を行うなど流水の正常な機能の維持を図るため、倉渕ダムで不特定容量を確保



○近年の上里見利水基準点における河川流況を踏まえ、ダムによって必要水量を確保する緊急性は低いと判断。

③水道用水の供給

〔現行計画〕

倉渕ダムにより高崎市に63,330m<sup>3</sup>/日の水道用水を供給



- ・ 高崎市は、水需要の見直しを行った結果、新規必要量は21,000m<sup>3</sup>/日となり（H20）、他水源から水利権を取得済み。（H23.8）
- 倉渕ダムによる水道用水の供給は不要

●群馬県の対応方針

県としては、第29回群馬県公共事業再評価委員会（平成22年3月）による答申及び今回の検討結果を総合的に判断して、倉渕ダムを「中止」する。